

## 1. 重点調査項目

- (1) 人獣共通感染症対策について
- (2) 人と動物の共生社会づくりについて

## 2. これまでに実施した調査

### (1) 参考人招致

#### ① 6月10日(月) 公益社団法人三重県獣医師会 会長 西山 治生 氏

- ワンヘルスの考え方について
- 平成27年1月6日三重県医師会と学術協力の推進に関する協定書を締結
- 平成27年3月27日三重大学と学術交流に関する包括協定書を締結
- 福岡宣言について
- 福岡県ワンヘルス推進基本条例について
- 徳島県ワンヘルス推進条例について
- 福岡県ワンヘルス推進行動計画について

#### ② 6月25日(火) 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 芳賀 猛 氏

- ワンヘルスの概念
  - ・人・動物・環境は相互に密接な関係
  - ・真の健康＝それらを総合的に良い状態にすること
- ワンヘルスの概念提唱の背景
  - ・20世紀終わりに相次いだ動物由来の新しい感染症
  - ・人間だけを考える活動への警笛
- ワンヘルスアプローチ
  - ・動物と人間の種を超えて感染する病原体に対処
  - ・ヒト、動物、生態系の健康を追求する統合的アプローチが必要
- 感染症と病原体
  - ・感染症＝病原体（主にウイルス・細菌などの微生物）が人（または動物）の体内に侵入・増殖して発病する疾病
  - ・感染症成立の三要素（①病原体②感染経路③感受性宿主）3つ揃って成立→一つでも無くす対策が必要
  - ・人から人へ簡単に感染するような変異が病原体に起こると新しい感染症（新興感染症）が発生する

○動物感染症のインパクト

- ・人の感染症の60%が人獣共通感染症
- ・人の新興感染症の75%が動物由来  
→人の健康への脅威
- ・畜産物の20%が感染症により損失  
→食料の安全保障への脅威

○越境性動物疾病

- ・国境を越えて蔓延し、発生国の経済、貿易及び食料の安全保障に関わる重要性を持ち、その防疫には多国間の協力が必要となる疾病
- ・CSF（豚コレラ）とASF（アフリカ豚コレラ）  
→症状だけでは見分けがつかないが、まったく別の病気  
ASFはこれまで国内発生が確認されていないが、ワクチンがないウイルスは畜産物（お肉）の中でも生きている

○インフルエンザ

- ・季節性インフルエンザ…原因ウイルスが少しずつ変異しながら毎年ヒトの間で流行しているインフルエンザ
- ・新型インフルエンザ…抗原性が大きく異なる原因ウイルスが新たに出てくることで、急速に感染が拡大する可能性のあるインフルエンザ
- ・高病原性鳥インフルエンザの対策  
農場に入れない、家畜を護る

○薬剤耐性菌＝抗生物質の効かない細菌

- ・もし薬剤耐性菌の対策を何も取らないと、2050年までに約1000万人が死亡するとの予測（その約半数がアジア）。

○人・動物・環境の良い状態を目指して

持続可能性には再生可能な自然資本が重要  
かつては無限のように勘違いされていた自然をいかに守っていくか  
動物・生態系・環境への配慮、そのための仕掛けづくり（政治、経済、社会）

**③ 8月7日（水） 公益社団法人三重県医師会 会長 馬岡 晋 氏**

- ・新型コロナウイルス感染症の課題・対応をふまえた、新興感染症等への取組、平時の感染症に対する取組について調査

## (2) 県外調査 7月8日(月)～9日(火)

### ①福岡県議会

#### ○ワンヘルスとは

- ・人口増加、食料問題、農地化、森林開発、森林破壊、環境問題、生態系の破壊、地球温暖化など、様々な分野にまたがる問題が相まって、人獣共通感染症が増加→その対応のためには、ワンヘルスの理念に基づく総合的な取組が重要
- ・人と動物の健康と環境の健全性は一つとして一体的に守っていこうという考え方=次なるパンデミックへの備え

#### ○福岡県のワンヘルスの取組

- ・ワンヘルス関連条例と行動計画

(福岡県ワンヘルス推進基本条例)

ワンヘルスの理念に基づく行動又は活動を推進し、ワンヘルスの理念の実践に関する課題に取り組むための基本理念、基本方針及びその基盤となる措置等に関し必要な事項を定めたもの

(ワンヘルスの実践促進に関する条例)

「ワンヘルス」の取組の実効性を確保するため、県や市町村、事業者、県民が担うべき責務などを定めたもの

(福岡県ワンヘルス推進行動計画)

基本条例の6つの基本方針を具体化する県の施策又は取組を体系的に整理

- ・福岡県におけるワンヘルス推進体制

県、県議会、市町村、医療関係団体、研究機関等で構成する「福岡県ワンヘルス推進協議会」を設置し、行動計画の策定や計画の進捗等について継続的に協議・検討

令和3年度に保健医療介護部ワンヘルス総合推進室を新設し、令和6年度からワンヘルス総合推進課に改組

- ・ワンヘルスセンター

新興感染症や地球温暖化などの課題に対応するため、人の健康と環境の保全に関する調査・研究機能を持つ「保健環境研究所」と動物の保健衛生を一元的に扱う「動物保健衛生所」とが相互に連携した「ワンヘルスセンター」をみやま市に整備予定

- ・福岡県ワンヘルス国際フォーラム

人獣共通感染症などの諸課題に対して、各分野の世界トップクラスの研究がワンヘルスアプローチにより解決することを目指し、研究成果などを世界に向けて発信

- ・ワンヘルスの森

ワンヘルスの理念を実感できる場として、県立四王寺県民の森を「ワンヘルスの森 四王寺」として整備

- ・福岡県ワンヘルス啓発施設

県民がワンヘルスについて理解を深めることを目的として、市町村が申請する、ワンヘルスを学び、体験できる施設を「福岡県ワンヘルス啓発施設」として認定

- ・ワンヘルスフェスタの開催

ワンヘルスを県民により身近に感じ、理解してもらうことを目的に2020年度から開催

- ・ワンヘルス認証制度

ワンヘルスの理念に沿って生産される農林水産物等を認証する「福岡県ワンヘルス認証制度」を全国で初めて創設

- ・ワンヘルス宣言事業者登録制度

事業者におけるワンヘルスの取組を広げることが目的に、①ワンヘルスの理念に賛同②ワンヘルスに関する活動③対外的に情報発信するよう努める、の3点を宣言する県内に事業所等を有する法人、団体又は個人事業主を登録する制度

- ・ワンヘルス教育

ワンヘルスに関する児童生徒の理解を深め、基本理念にのっとった行動及び活動を促進するため、「ワンヘルス教育推進事業」を実施

①ワンヘルスに関する教育啓発資料（リーフレット）の作成・配布

②全県立高校でワンヘルス教育を実施

③ワンヘルス教育推進教員研修会の実施

- ・ワンヘルスマスター

ワンヘルスの基本（理念、歴史、現状）から実践的なワンヘルスの取組例まで教えることができ、積極的にワンヘルスの啓発活動を行う「ワンヘルスマスター」を育成するプログラムを実施

- ・県内市町村によるワンヘルス推進宣言

令和3年度以降、県内の市町村においてワンヘルスの取組が拡大し、県内60市町村中29市町村長がワンヘルス推進宣言（県行動計画に連携協力するとともに、ワンヘルス実践施策を積極的に推進する。住民へのワンヘルス周知に努め、理解の促進を図り、その実践活動に対し必要な支援を行う等）を表明

## ②四王寺県民の森（ワンヘルスの森）

○ワンヘルスの理念を自然の中で実感できる森の現地調査

- ・ワンヘルスの森ミュージアム

森に生息する動物や四季折々の植物、森林浴の効能等について学ぶことができる

- ・解説板の設置

ワンヘルスの説明や森林浴のコースマップ、見どころを紹介（多言語）

- ・ワンヘルスガイドの育成

ワンヘルスの説明や「ワンヘルスの森」を案内できるガイドを育成